〇総社市都市計画マスタープランの見直しについて（質疑応答）

（委員）

清音駅周辺について，図面上で清音駅周辺が丸で囲まれ，生活の拠点となっているが，住民としては実感がない。どのような意味合いで生活の拠点として位置づけているのか。

【事務局】

総社市内にある各駅の周辺を生活の拠点と位置付けている。それぞれを各地域の賑わいの中心として都市計画マスタープランには位置付けている。清音駅周辺の生活の拠点としての丸が住民との実感と合わないことに関しては，御意見をいただきながら適切な位置にしようと考えている。

（委員）

清音駅周辺がこれ以上発展する姿のイメージが湧かない。計画には，清音駅周辺に限らず地域の方の意見を聞いて反映していただきたい。

【事務局】

賑わいを創出することができるように，都市計画マスタープラン上で土地の使い方を定めていきたい。

（会長）

清音地区が地域拠点になるのは都市計画上自然なことである。市街化を抑制する市街化調整区域を含みながらも賑わいの創出を検討していく必要がある。

（委員）

大きく2つある。

1つ目は，まちづくりの目標が現行の都市計画マスタープランより抽象度が高まったように思う。現行の都市計画マスタープランはまちづくりの目標が達成できたかを測ることができる。新しい都市計画マスタープランは，総社市民であることを幸せに感じられるまちとなっており測りにくい。しかし，基本目標は具体的に書いてあり，テーマと基本目標とにずれがあるように感じる。幸せというものから基本目標が階層的下りてきているように感じない。市はどのように考えているのか。

2つ目は，市長は人口増を目指しており，そのような都市計画マスタープランとなっているが，他の多くの自治体は人口減少を念頭に置いた都市計画マスタープランを定めている。そのような中で総社市が 10 年後，どのようなまちの姿を目指すのかビジュアルがもっとあればイメージしやすいと思う。

【事務局】

最初の質問について，御指摘のとおり抽象的になっている。ただし，目標の達成を検証するにあたっては，概要版 6 ページの計画の推進と実現化のための方策という PDCA サイクルによる進行管理を行い，検証項目を設定して，その結果を踏まえて行いたいと思う。現行の都市計画マスタープランと比べて，まちづくりの目標は抽象的になっているが，基本目標の方でより具体的に実施することで，目標が達成できたかを考える。

2 つ目の御指摘については，写真や図面を可能な限り用意したい。10 年後のビジュアルビジョンまでは用意できないが，文章にしてイメージが少しでもしやすいように努力する。次回、1 月下旬頃開催予定の都市計画審議会で確認していただきたい。

（委員）

素案の都市計画マスタープランは，ある程度の抽象性を持たせながら，この抽象性を具体的にするビジュアルとして，地域の個性みたいなものを見出すという基本的なフォーマットになっている。しかし，長い間このフォーマットが続いていて伝わ

りきれていない部分があるので，そこに何かを加えて，市長が挨拶でおっしゃっていたような，夢のある計画にしていただいきたい。

【事務局】

できる限り努力していくので，今後とも御意見や御協力をお願いしたい。

（委員）

国道 180 号総社・一宮バイパス沿線を市街化調整区域から外す計画は，今後のバイパス工事の進捗に関わらず実施するつもりでよろしいか。

【事務局】

はい。概要版 5 ページの南部地域図面の破線の丸で囲ったあたりのどこかの地域を外す候補として考えている。

（委員）

結構広く囲んでいるように見える。

【事務局】

候補地としては広範囲だが，実現するとなれば現実的な面積で実施されると思う。バイパスも約 10 年で井尻野の方まで繋がると聞いている。それに合わせて市街化区域編入を実施できるようにと思っている。具体な場所は今後検討していく。

（以上）